

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

REC'D 10 MAR 2005

WIPO

PCT

出願人代理人

生田 哲郎

様

あて名

〒 106-0032

東京都港区六本木1丁目9番9号

六本木ファーストビル7階

生田名越法律特許事務所

PCT

国際調査機関の見解書

(法施行規則第40条の2)

[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

08.3.2005

出願人又は代理人

の書類記号

SHIS-006-PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/JP2004/017356

国際出願日

(日.月.年)

22.11.2004

優先日

(日.月.年)

27.11.2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. A61K7/48

出願人 (氏名又は名称)

株式会社資生堂

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☒ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☒ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

18.02.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

大宅 郁治

4C

8829

電話番号 03-3581-1101 内線 3452

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

BEST AVAILABLE COPY

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/017356

第I欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル

- b. フォーマット ☐ 片面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式

- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/017356

第Ⅲ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 1 の一部、7～9 の一部

理由：

☐ この国際出願又は請求の範囲 _____ は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☒ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 1 _____ の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

請求の範囲 1 は「グリシン誘導体、アミノジカルボン酸誘導体、アシルアミノジカルボン酸誘導体、ピロリジンカルボン酸誘導体、ピペリジンカルボン酸誘導体、ヘキサメチレンイミンカルボン酸誘導体及びβ-アラニン誘導体並びに前記各誘導体の塩からなる群から選ばれる化合物の1種又は2種以上」を有効成分とする不全角化抑制剤、毛穴縮小剤に関するものである。しかし、これら有効成分の範囲が明細書に明確に定義されておらず、請求の範囲 1 はPCT第6条における明確性の要件を欠く。請求の範囲 7～9 において、請求の範囲 1 を引用する部分についても同様である。

☐ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 _____ が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☒ 請求の範囲 1 の一部、7～9 の一部 _____ について、国際調査報告が作成されていない。

☐ ナクレオチド又はアミノ酸の配列表が、実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を、次の点で満たしていない。

書面による配列表が

- ☐ 提出されていない。
☐ 所定の基準を満たしていない。
☐ 提出されていない。
☐ 所定の基準を満たしていない。

コンピュータ読み取り可能な形式による配列表が

☐ コンピュータ読み取り可能な形式によるナクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を、次の点で満たしていない。

- ☐ 提出されていない。
☐ 所定の技術的な要件を満たしていない。

☐ 詳細については補充欄を参照すること。

様式PCT/ISA/237（第Ⅲ欄）（2004年1月）

BEST AVAILABLE COPY

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/017356

第IV欄 発明の単一性の欠如

1. 追加手数料納付の求め(様式PCT/ISA/206)に対して、出願人は、

- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 追加手数料の納付はなかった。

2. ☐ 国際調査機関は、発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際調査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

明細書に記載されたの不全角化抑制剤、毛穴縮小剤、肌荒れ防止・改善剤、皮膚外用剤における有効成分である、請求の範囲に記載の①一般式(1)で示されるグリシン誘導体、②一般式(2)で示されるベンゾイルアミノジカルボン酸誘導体又はベンゼンスルホニルアミノジカルボン酸誘導体、③一般式(3)で示されるアシルアミノジカルボン酸誘導体、④一般式(4)で示されるピロリジンカルボン酸誘導体、ピペリジンカルボン酸誘導体及びヘキサメチレンイミンカルボン酸誘導体、⑤一般式(5)で示されるβ-アラニン誘導体、⑥一般式(6)、(7)及び(8)で示されるグリシン誘導体、及び、⑦一般式(9)及び(10)で示されるアミノ硫酸誘導体は、相互に、明細書に記載された機能を発現するための重要な化学構造要素を共有するものとは認められない。すなわち、請求の範囲1~26に係る発明は同一の又は対応する特別な技術的特徴を共有するものとはいふことができず、これらの一群の発明は単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められない。

4. したがって、国際出願の次の部分について、この見解書を作成した。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

様式PCT/ISA/237 (第IV欄) (2004年1月)

BEST AVAILABLE COPY

国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2004/017356

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	3, 4, 6, 11~17, 20~26	有 無
	請求の範囲	1の一部、2, 5, 7~9の一部、10, 18, 19	
進歩性 (IS)	請求の範囲	3, 4, 6	有 無
	請求の範囲	1の一部、2, 5, 7~9の一部、10~26	
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1の一部、2~6, 7~9の一部、10~26	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明

文献

文献1 : JP 11-158055 A (株式会社ノエビア) 15.06.1999

文献2 : JP 2002-338426 A (ライオン株式会社) 27.11.2002

説明

文献1には、グリシン、グリシルグリシン、L-プロリン等のアミノ酸又はその誘導体が皮膚の角化正常化作用を有することが記載されている。文献2には、プロリン、ヒドロキシプロリンが、かかとや手のひらのざらつき改善剤、低減化剤、化粧のり改善剤、面皰や角栓、毛穴のざらつきの予防改善剤、きめ改善剤、小じわ改善剤として有用であることが記載されている。このように、請求の範囲 1の一部、2、5、7~9の一部、10、18及び19に係る発明は、文献1及び2に記載された発明であり、また、請求の範囲 1の一部、2、5、7~9の一部、10~26に係る発明は、文献1及び2に具体的に記載された発明と比較して著しく優れた効果を有するものとは認められない。